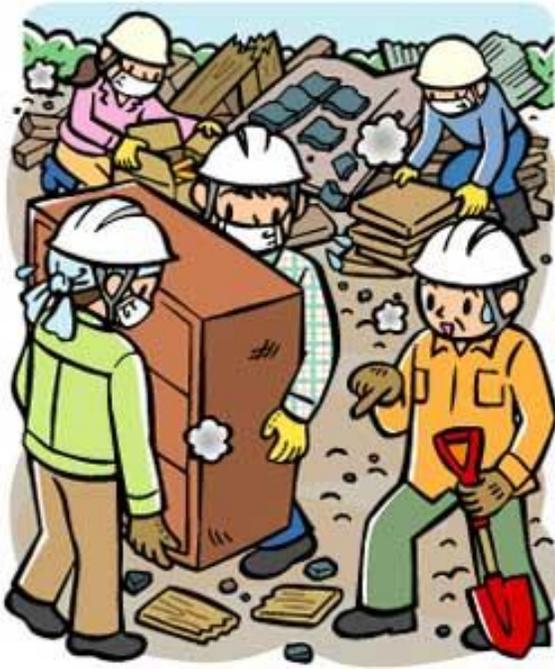


Help Each Other

～助け合い、共に次の一歩を踏み出すために～



広島県立五日市高等学校

発表者: 1年 辻野 諒
1年 木原 菜歩

目的

災害ボランティアへの参加人数が不足している現状を知り、

地域の復興のためにどうすれば参加人数を増やせるのか提案すること。

調査方法

1. インターネット・・・実際のボランティアの現状
2. アンケート・・・五日市高校（一年生）の場合
3. 災害ボランティア参加者へのインタビュー
(参加するための手段と参加して分かった事)

調査結果

1. インターネット (広島県内のボランティア状況)

日	広島市	呉市	竹原市	三原市	尾道市	福山市	府中市	三次市	庄原市	東広島市	安芸高田	江田島市	府中町	海田町	熊野町	坂町	大崎上島	世羅町	神石高原	活動者合計	備考
7/11	46	550		145	13		42	3	14			55		79	165					1112名	
7/12	47	500		152	39	131	56	4	14	125		56	150	93	172	108				1645名	
7/13		1047		238	37	223	59	22		422		64		65	112	133	6	20		2486名	
7/14	422	1369	41	328	131	243	168	11	45	492		160	185	134	160	693	11	28		4621名	[連休初日]
7/15	1063	2016	30	360	127	198	79	13	57		16	190	188	176	166	665	15	35		6087名	
7/16	1163	1640	41		93	114	55	8	51		10	145	130	120	136	366	16	39		4979名	
7/17	361	307	14				16	1	19	97			44	46	55	178		8		1364名	
7/18	384	386	22				14	4	15					57	154			8		1511名	
7/19	400	366					8	1	15					53	187	2	7			1684名	
7/20	411	329					5	1	14						184			7		1493名	
7/21	1109	783	70				28							109	12	784	16	19		4054名	
7/22	1385	1110	107	441	111		28			291	32	136	140	108	40	668	25	25		4689名	
7/23	357	391	40	159	44					128	9	39	43	95		269		11		1585名	
7/24	333	358	30	151	0					110	14	58	42	28	18	181				1323名	
7/25	461	297	24	133	0	101	9			99		55	42	25		266				1512名	
7/26	291	367	41	107	25	121	14			109	4	49	89	96	23	213				1549名	
7/27	314	318	38	148	49		13			125	2	48	104	110	20	249				1538名	
7/28	111	728	99	343	95	14	18			217	29	131	125		49	680	18			2657名	
7/29					0															0名	台風のため活動休止
7/30					0						8				6					14名	台風のため活動休止
7/31	348	324	71	108	43					96	50	58	30	62	49	318				1557名	
8/1	410	308	93	122	19					101	2	58	23	61	32	282				1511名	
8/2	320	336	66	126	67					108	3	77	36	40	25	274				1476名	
8/3	377	348	30	149	65					99	3	53	50	38	18	315				1545名	
8/4	706	938	107	281	30					232	10	178	55	55	29	804	0			3425名	
8/5	558	755	69	225	66	71				233	15	108	37	41	32	664				2874名	
8/6		335	38	142	71					77			19	40	17	244				983名	

呉市

三次市

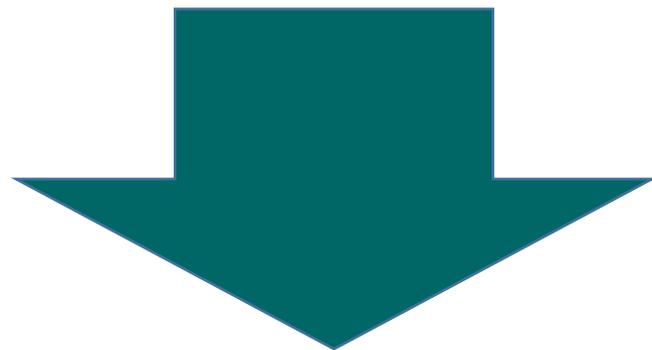
参加者が
多い

に対して

参加者が
少ない

このことから言える
のは...

都市部からアクセスし易く、参加が容易な所
あるいは
被害の規模が比較的大きかった所は、参加者が**多い**



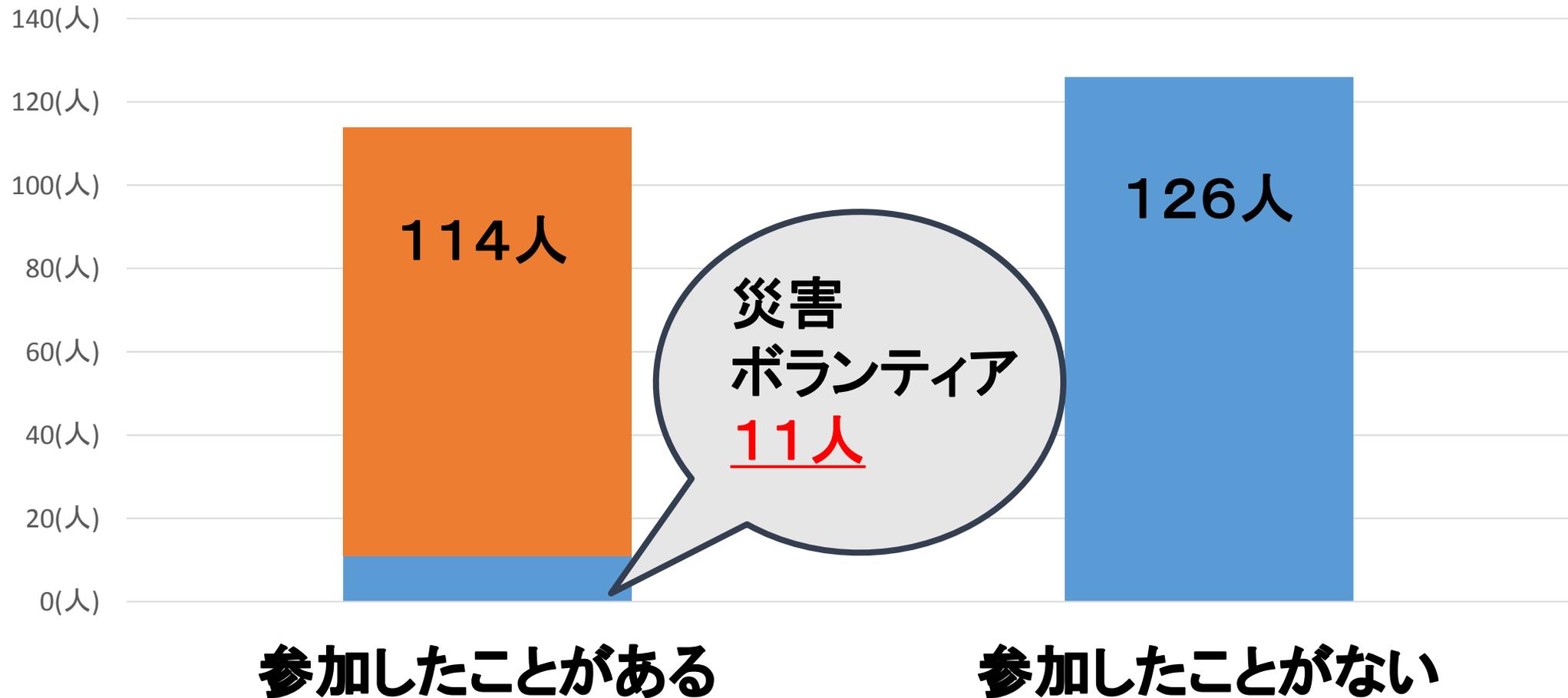
それに対して...

都市部からアクセスしにくい地域
あるいは
被害の規模が比較的小さかった所では、参加者が**少ない**

2.アンケート・・・五日市高校(1年生)の場合

ボランティアに参加することについてのアンケート結果 240人からの回答

あなたはボランティアに参加したことがありますか？



災害ボランティアに参加した理由

理由	人数
・少しでも地域（現地）の力になれたらと思った	9人
・時間に余裕があった	5人
・親や友達に勧められた	3人
・困っている人を助けたい	2人
・自分の住んでいる地域（現地）の方達の心の支えになる事が出来る	2人

災害ボランティアに参加しなかった理由

理由	人数
・参加する時間が無いから	30人
・場所と参加方法がわからなかった	20人
・興味が無いから	12人
・現場が遠い	10人
・気力や体力に自信がない	9人

3.災害ボランティア参加者へのインタビュー

災害ボランティア参加者 辻野諒の体験レポート

7月豪雨の災害ボランティア
〔平成30年7月25日～9月2日〕

私が災害ボランティアに参加した理由

平成26年の豪雨災害の際に、ボランティアに参加しようと考えたが、参加方法が分からず参加出来なかった。そして、昨年の災害の状況をテレビで見てすぐに、自分もボランティアに参加しなければいけないと思った。参加方法を模索していた時に、校内の部活動での参加募集があり、それに参加した事を皮切りに、個人で参加するようになった。

ボランティア参加方法(私の場合)

- ①: ネットで募集状況を検索し、現地のサテライトに参加日時と参加人数を電話で伝える。
- ②: 親の職場でボランティアに参加する機会があったので、親と一緒に参加した。
- ③: 部活動の呼びかけでのボランティア参加。

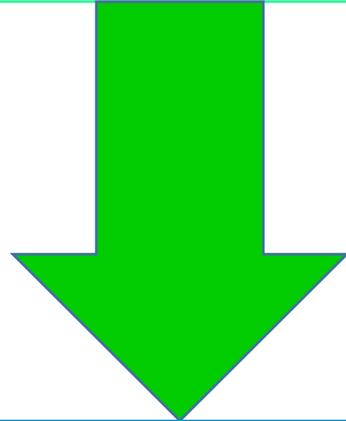
実施回数、実施場所と活動内容

- 1回目・・・海田町中野〔部活動で参加、
地面に堆積した泥の除去〕(7/25)
- 2回目・・・南区楠那地域〔土砂の撤去〕(7/28)
- 3回目・・・梅香団地〔土砂と瓦礫の撤去〕
- 4回目・・・南区楠那地域〔家財の運び出し〕
- 5回目・・・矢野東地域〔土砂の撤去〕(9/2)

現地に行って分かった事

参加人数に余裕があり、スムーズに活動が出来た場所
＝多くの報道があった場所

(地域例: 矢野東地域、梅香団地)



反対に...

参加人数が不足し、作業があまり捗らなかった場所
＝報道回数が少なかった、あるいは全くなかった場所

(地域例: 南区楠那地域)

参加した感想

1日の作業を通して、作業が始まった時と比べて、終わった時に

現地の方の表情が明るくなっていた

り、張り詰めた雰囲気少しほぐれたなと感じた。 帰り際、現地の方からお礼を言われたときは、嬉しかった。

逆に現地の方にも沢山助けて頂いた。

解決策 = オリジナルパンフレットの作成

内容・・・①身近な友達の体験談、現地の状況(メディアであまり取り上げられない地域の情報)、ハードルは高くはないことをアピールするメッセージ。

②具体的で、認知されやすい参加方法を高校生の視点でイラストを使用して紹介する。

(例: SNS, ブログ、ホームページの開設)

費用・・・スポンサー、文化祭での募金活動、クラウドファンディング

設置方法・・・校内から始め、徐々に範囲を拡大する。
(公民館、区役所、集会所、他校、コンビニ、駅)

最終目標

次回、災害が起こってしまった場合に、活動出来る人を現在の2%から、50%まで増やしたい。

参考文献

- 内閣府防災ページ (P1):
<http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h21/11/question.html>
- 広島災害ボランティア情報 (P5):
<https://docs.google.com/spreadsheets/d/19VIYmbTaTro-44gv2HzD0WZGnVMCT6BRRsR0hPBd8jA/edit#gid=0&range=E1>

ご清聴有難う御座いました！

